

# 第2回「Lab・未来創造 in 南町田」REPORT



<講師>

演出家

花井 裕一郎氏

幾つかのテレビ局にて番組演出を行ない、その経験を活かし長野県小布施町立図書館「まちとしょテラソ」館長に就任。

「死ぬまでに行ってみたい世界の図書館15選」に選ばれた図書館の演出を行った経験を有する。公共空間の変化に対応するための視点や「おもてなし」の利用者目線の社会資本整備等について、講演・WSを実施。「見えないのにある」みんなの素敵な力を引き出し、そこに潜む物語を可視化するという演出を行っている。

## 研究会の流れ

- ① 開会
- ② 市からの挨拶
- ③ 講師自己紹介
- ④ レクチャー
- ⑤ 各班でワーク
- ⑥ 各班発表
- ⑦ 開会

「市民が集う場所ってどんなところ?~みんなで創る公共空間~」

## 物語のある公共空間をみんなで創っていく

物語には多様性があり、同じ物語はひとつとしてない。公共空間にもひとつひとつの物語がある。演出家である花井氏は、本来公共空間が持つ魅力的な物語を「公共施設はこうあるべき」という既成概念を取っ払い、発想の転換を起こすことで、魅力的な公共空間の創造へつながることをレクチャーしていただきました。

そうした物語のある公共空間づくりを、花井氏が実際に携わった長野県小布施町の町民主体のまちづくりの取り組みや、自身が館長として携わった同町の町立図書館、まちとしょテラソ、本を介して人が集まる場所を創ったまちじゅう図書館、直近で取り組んでいる福岡県福智町の町立図書館の事例を中心に、住民と一緒に魅力的な公共空間をどのように創っていくかを学びました。

## 花井氏の考え方~人が集まる場所ってどんなところだろう?~

人が集まる場所

= ①居心地のいい場所 ②あいまいな場所 ③デザインコードを考えた場所  
テーマパークを作るのではなく、コミュニティを作ることが最優先。地域に合った歴史・アイデンティティを積み重ね、地域住民に馴染む快適なまちを目指すこと。

「競争力」から「共創力」へ、「協調性」から「多様性」へ

これからのまちづくりは、行政と民間が競うだけでなく、共に力を合わせながら様々な考え方を受け入れる多様性を大事にすることの大切さをレクチャーいただきました。

## 「まちに対して、自分が出来ること」

参加者が3~4名の10グループに分かれ、“自分のまちを良くするために、自分が今から出来ること”を考え、グループで話し合いました。自分が望むまちにしていけるために「自分から取り組めること」まで考えを掘り下げることで、主体的にまちに関わっていくことに重きを置いてワークを行い、たくさんのアイデアが生まれてきました。

**まちの魅力を共有・発信する**

- ・Labのような会に率先して参加する。まちづくりに住民として参加する。
- ・コンベンションに参加し、町田の南部の魅力を広く宣伝・共有するきっかけにする。

**まちのにぎわい**

- ・小布施町などの「まちじゅう図書館」(民家やお店の一角に本棚を設けて、訪れた人が読書・交流できるようにする)はいいと思う。
- ・家にある本を持ち寄って、本の魅力を紹介したり、読書会や読み聞かせを催す。
- ・家の1階をギャラリースペース、教室や趣味のスペースにする。

**交流の場をつくる**

- ・イベント(花見、お盆祭り、マラソン大会など)を企画する。
- ・小学校の空き教室(放課後)や空き農地などを活用し、子どもやお年寄りなど、多様な代が集まり、活動する場所をつくる。
- ・空き家を有効活用するなどして、若い人と高齢者が交流する場所をつくる。
- ・「何かしようチーム」。公園などで、常に誰かがいて何かをやっている、自由参加の場所をつくる。

**子育て・安心安全づくり**

- ・公園や学校で大人が子どもに教える。鶴間公園で冒険遊び場を運営する。
- ・子ども達の見守り・預かりに関わる。中高生の居場所づくりをして、大人が見守る。
- ・まちを明るく、治安を良くすることに関わる。

**みどり**

- ・鶴間公園についての物語を大切にしたい。手付かずの豊かな自然を大切にしたい。
- ・鶴間公園の管理にボランティアとして関わる。
- ・無農薬野菜、はちみつづくりなどをする。